

平成 28 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

より高きをめざす「尚美」の精神に根ざし、豊かな教養を身に付けさせ、ものづくりを通して新しい時代の創造をになう、自主自律の気風に富んだ健康でたくましい人材の育成をめざす。

(2) 教育方針

- ア. 学力を充実させ技術の練磨を図る
- イ. 公正な判断力を身に付けさせるとともに社会性を育成する
- ウ. 礼節を重んじ、心身を鍛える
- エ. 勤労意欲と責任感の涵養を図る
- オ. 豊かな感性を育むとともに個性を伸ばし、創造性の育成を図る

2 学校の特徴

本校は、平成22年4月より二上工業高校と統合し工業系5科、芸術系2科を持つ工業系専門高校として、より高きを求める「尚美」の精神のもと、ものづくり・作品づくりを通して生徒の人格陶冶と自己実現を旨とする教育活動の実践を目指している。一人ひとりの生徒が、普通教育と専門教育の調和と深化を図ることによって、知性を磨き、部活動をはじめとする特別活動を通して人間性や体力の育成に努め、健全な精神と創造性豊かな感性を持って社会に貢献する人材となるよう指導し支援している。

また、「青井中学生美術展」や地域のイベントに参加するなどものづくりの交流を通して地域との連携を深めるとともに、新しい総合的な工業科高校として、「ものづくりの中核校」「地域のものづくりの拠点」となるよう魅力ある学校づくりに努めている。

3 学校の現状と課題

人間力豊かなものづくりのスペシャリストである工業人の育成を目指す本校の教育活動は、学力向上のための学習活動、高校生として「けじめ」ある行動・態度がとれる生徒指導、望ましい職業観を身につける進路指導、生徒会活動や部活動等の特別活動指導などの核となる活動が相乗的に効果を上げるように教育活動を行っている。

ただ、生徒の中には学習習慣が確立されておらず、将来に対しても漠然とした印象やイメージしか抱いていない生徒も若干いるのが本校の現状である。このような状況を鑑み、いかに意欲的かつ継続的に取り組ませるかが課題である。

- ・総合的な工業科高校として、「ものづくりの中核校」となるよう、地域産業界や大学、研究機関等との連携を深めた学習活動を実践し、将来のものづくりのスペシャリストである工業人の育成を目指す。
- ・互見授業や生徒による授業評価の実施により授業の改善に努め、学習意欲を引き出す指導方法や評価、学力向上のための学習時間確保の対策等を検討する。
- ・各学科では、1年次において、学科横断の「ものづくり学」を実施するとともに、各学科の特性を生かして専門性の深化を図り、2年次からのコース制や専門技術者等による授業等を実施し、魅力ある工業教育の展開を目指す。
- ・学校と家庭の情報の共有を図り、生徒としての節度ある行動・態度がとれる人格形成を目指した生徒指導を推進する。
- ・98%以上の生徒が部に所属（兼部含む）しており、部の活躍や活動の勢いが学校の活性化に大きく貢献している。また、学校行事に対しても多くの生徒が積極的に取り組んでいる。
- ・2年生全員によるインターンシップの実施により、早期からの望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、生徒の多様な進路希望が実現できる進路指導を推進する。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none">・学習意欲の向上と専門知識の習得に励み、工業人としての基礎を確立するとともに、自ら学ぶ意欲の向上を目指す。・検定や資格取得の充実及び各種コンテスト・コンクール等への挑戦。・普通教科と各専門学科との連携により、家庭学習の習慣化を推進する。
	重点1 ① 重点1 ②	計画	<ul style="list-style-type: none">・ 授業の「質向上」のための授業アンケートの実施。 担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。互見授業を充実させる・ 本校独自の基礎計算力テストを年2回実施し、生徒の学力の分析を進め、各教科間の連携を図り、工業科の生徒として必要な基礎学力の充実に努める。 正答率の低い問題について関係強化での連携を図る。
(2)	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none">・意欲的かつ積極的な学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立し、生活の乱れによる遅刻・欠席・早退をしない、規則正しい生活ができる。・朝のあいさつ運動、日常の生活指導を通して「はじめ」ある行動・態度と高校生らしい服装やマナーを身に付ける。・年二回「保健だより」の発行により、健康に関する意識の向上を図る。
	重点2 ① 重点2 ②	計画	<ul style="list-style-type: none">・担任や学科、部顧問との連携を密にした面接指導を充実し、遅刻者の減少を図る。・全教職員の共通理解のもと、授業開始時や休み時間、放課後の部活動等、折に触れての継続的な服装指導により、再指導者の減少を図る。・ 朝のあいさつ運動(生徒と共に実施)や各種の保健活動の実施により、健康に関する意識の向上を図り、朝寝坊や怠惰等、生活の乱れによる遅刻を減少させる。・ 自転車事故の発生日点の生徒への周知や自転車点検を実施し、安全な登下校の意識を高める、交通事故の減少を図る。・定期健康診断等の結果や生徒保健委員会の活動を通して、健康に関する情報を発信し、健康保持のための自己管理を促す。
(3)	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none">・生徒自らが、その勤労観・職業観に基づいて、主体的な進路選択ができる能力を育てる。・進路選択を通じて、主体的な自己実現を図る。・インターンシップの充実、推進を図り、生徒一人一人のキャリアアップを実現し、進路選択時のミスマッチを低減する。
	重点3 ① 重点3 ②	計画	<ul style="list-style-type: none">・ 2年生全員によるインターンシップの充実を図り、早期からの望ましい勤労観や職業観を身に付けさせる。・工学系進学者を対象とした「基礎学力講座」等の特別指導を実施する。芸術系進学者の学力補充に対しては「絵画実技講座」等と併行した学習指導を早期から実施できるシステムの構築を推進する。・ 全学年を通して、専門性を生かせる進路について考える機会を設定し、専門に関係する就職・進学の割合を高くする。

(4)	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率85%以上を堅持し、学習との両立を図る。 ・各学校行事終了後、評価の調査を行い、満足度85%以上を目指す。 ・図書館利用や読書を推奨する活動を充実させ、生徒に利用のマナーを培うとともに、読書への関心・意欲を高め、主体的な読書習慣の定着を図る。
	重点4 ①	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・定着化する学校行事や活発な部活動について、生徒へのアンケートを実施し、その満足度や充実感を調査し、分析を行う。 ・定期的に各部長を集め、活動内容の把握や安全確認、活動の激励助言に努める。 ・部顧問間の連携や家庭との連携を密にし、活動しやすい状況の設定に努めるとともに、継続する意欲を支援する態勢作りに努める。 ・生徒会便りに大会日程やその成果を掲載し、学校全体の雰囲気や生徒の気力を高める。 ・生徒会を中心として事前アンケートを実施して、生徒の意見の把握に努める。 ・読書に対する広報活動を拡充し、図書館利用の充実と読書率(図書貸出し数)の向上を図る。 ・1, 2学期末に全校一斉の朝読書週間(年2回)を企画し、また、文学碑探索などを実施し、全生徒が本に親しむ機会を設定する。 ・国語科との連携を図り、図書館を活用した授業の展開や読書を促す指導を推進する。 ・図書館だよりを発刊し(年9回)、推薦図書、新着図書の紹介等、読書に関する広報活動の充実を図る。
重点4 ②			
(5)	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校が連携を強め、共通理解のもとに活発なPTA活動を目指す。 ・開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進し、地域の方々より学校運営等について意見を聞く。 ・視聴覚室およびコンピュータ実習室の活用を促進し、情報教育の活性化を図る。
	重点5	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等に合わせたPTA行事を計画し、保護者の参加率の向上を図る。 ・PTA役員会の出席率を高め、役員としての意識の向上につなげる。 ・参加しやすい役員会の持ち方や、役員相互のつながりを強化する取り組み検討し、役員の関わり度を増加させる。 ・PTA、同窓会、学校評議員、地域諸団体等に学校ホームページなども活用して、本校の教育活動を広く紹介するとともに、地域との連携を深める。 ・コンピュータ室の利用時間割の作成や、グループウェアを使用した予約システムの運営の向上を図る。 ・機器の状態を把握し、最適な環境を維持するよう努める。